

## 署名9300筆、募金300万円集まる 広がり見せる十坪住宅修復保存運動



大勢の方が参加した総会後の十坪住宅史跡めぐり



岡山理科大学専門学校の学生が作成した十坪住宅「梅ヶ香」の模型



ハンセンボランティア ニュース

第34号

ゆい・結・YUI

2017年10月16日 発行

ゆいの会事務局

岡山市北区弓之町1-17 五藤ビル4階

山本勝敏法律事務所内

電話 (086) 234-1711

FAX (086) 234-8696

編集 則武 透



## 前進する十坪住宅修復保存運動

国立療養所長島愛生園には、戦前149棟の「十坪住宅」が建設されましたが、現在、5棟のみが残されています。1棟は現在も住居として使用されており、4棟が空き家となつて長年を経過し、このままでは朽廃を待つばかりの状態となっています。この「十坪住宅」は、戦前、すべてのハンセン病患者の隔離収容を目指した絶対隔離政策の下、官民一体で進められた「無癩県運動」を象徴する歴史的建造物です。

当会では、昨年、この「十坪住宅」の修復・保存を国（厚生労働省）に要求する署名活動を始めました。また、市民の協力を得て、現存する「十坪住宅」の1棟を修復するため、修復に必要な資金を集める募金活動もあわせて行っており、これまで、地元の中高校生も参加した街頭署名活動を4回行いました。

今年、8月末現在で、署名は約9300筆、募金は約300万円となっています。当会では「徳島路太利」と名付けられた1棟を修復したいと考えています。修復自体に必要な費用は約500万円と試算されています。

当会は、署名・募金活動の他に、この運動を紹介するリーフレット「十坪

住宅を保存しよう」を作成し、さらに市民に参加を呼びかけて「十坪住宅」を含む長島に残る歴史的建物等を巡る「長島ウォーキング」を実施しました。

さらに、平成29年1月21日には、「ハンセン病療養所施設保存に向けたシンポジウム&コンサート」を開催し、5月19日から21日にかけて岡山市等で開催された「第13回ハンセン病市民学会in香川・岡山」の分科会「瀬戸内3園の世界遺産登録運動の現状と課題」においても、「十坪住宅」の修復・保存運動の取り組みを紹介しました。

「十坪住宅」の修復・保存には、この運動に理解を示し、協力を申し出てくれた地元の建築士の方々が、「十坪住宅」4棟の屋根を雨漏り防止シートで覆う応急対策や修補・保存に向けた「十坪住宅」の実測調査、実測図面の作成を行ってくださっていますし、地元の岡山理科大学専門学校は、「十坪住宅」の模型作りに取り組んでくださっています。

このような支援を得ながら、当会は、長島愛生園、同入所者自治会、建築士、専門学校の関係者等とも、「十坪住宅」をどのように修復するか、修復後の活用方法などについて議論を交わしながら、運動を進めています。

今年の秋には、「長島ウオーキング」の第3弾として長島での史跡等の周辺に放置されたゴミを清掃する「クリーンハイキング」を計画しています。

こうした市民参加型の企画を通じて、一人でも多くの市民に、「十坪住宅」を含む、長島に残る貴重な歴史的遺産を保護することへの関心呼び起こしたいと考えています。

広島県福山市の景勝地である鞆の浦世界遺産登録を目指す運動の調査から始まった「十坪住宅」修復・保存運動も、「ゆいの会」の会員だけでなく、さらにこの運動に共感して支援してくれる地元建築士さんたち、学生さんたちを含めた市民の方々へ着実に広がりを見せています。さらにこの運動は療養所に残るその余の歴史的建物、史跡の保存に向けた具体的な動きにも影響を与えています。

当会としては、引き続き、まず「十坪住宅」の1棟を市民の力で修復するという目的に向かって頑張っていきたいと考えています。

（平成29年9月 会長 近藤 剛）



## ＊平成29年度「ゆいの会」総会のご報告＊

本年4月9日（日）午前10時から約2時間、長島愛生園で「ゆいの会」総会を開催した。参加者21名・委任状49名、平成28年度活動報告、決算報告、監査報告が承認され、平成29年度活動方針、人事、予算が承認された。

総会後、ハンセン病療養所施設保存に向けた意見交換会が行われ、基調報告、意見交換の後、結論として、ハンセン病療養所施設保存を目指す点では、ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会、全療協、「ゆいの会」は同じであるが、力量的なことがあって「ゆいの会」は寄付による十坪住宅復元という方法でこれに協力する、今後、推進協議会と意見交換しながら進めたいということになった。

午後1時より「十坪住宅と史跡めぐり」を行い、晴天のもと、子供さんを含む多数の参加のもとで施設めぐりが行われ、好評のうちに終了した。

（事務局長 山本勝敏）

### ハンセンボランティアニュース

## 結・ゆい・Yui 第34号

### 目次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 1. 前進する十坪住宅修復保存運動        | 1  |
| 2. ゆいの会平成29年度総会報告        | 2  |
| 3. シンポジウム&コンサートを開催！      | 3  |
| 4. ハンセン病市民学会の報告          | 4  |
| 5. 第16回ハンセンボランティア養成講座    | 5  |
| 第16期生12名が誕生              |    |
| 6. ボランティア活動報告            | 6  |
| ①夏祭りボランティア               |    |
| ②ふれあいボランティア              |    |
| 7. 街頭署名・募金活動の報告          | 7  |
| 岡山ローカルアソシエイト報告           |    |
| 8. 連載企画「世界遺産登録するならこの遺跡！」 | 7  |
| 第4回 長島愛生園「日出浴場」          |    |
| 9. 寄稿「長島は人権学習の場」         | 8  |
| 10. 田村さんの「歴史館だより」        | 9  |
| 長島クリーンハイキングのご案内          |    |
| 世界遺産NPOの進捗状況             |    |
| 編集後記                     | 10 |



# シンポジウム&コンサートを開催！

1月21日午後2時～午後5時まで、岡山市北区の西川アイプラザで、ゆいの会主催イベント「ハンセン病療養所施設保存に向けたシンポジウム&コンサート」が開かれ、約200人の方が参加されました。

1部のシンポジウムで、東京大学の太月教授は、「十坪住宅」は光田健輔によって、クリオン（フィリピン）→栗生楽泉園→長島愛生園→小鹿島（韓国）・楽生院（台湾）を結びつけるものであり、隔離政策を形成する根幹的思想性の経緯が理解できる建物である、と解説されました。

2部の沢さんのコンサートは、素晴らしい音響で3か国語の「アメイジング・グレイス」で始まり、塔和子の心にしみる詩の「証」「胸の泉」などを歌い、大島青松園との長いかかわりの語り、その後栗生楽泉園の桜井哲夫（1924～2011）の詩に中川五郎が曲を付けた、「消印のない手紙」の歌が印象的でした。



第1部シンポジウムの様子



コンサート後の沢さんのサイン会

参加者からは「シンポジウムに参加し、十坪住宅を世界遺産にぜひ登録してほしいと思った」「沢さんがピアノの調べとともに大島青松園の入所者の方々との長年の交流と想いを語られ、勇気と正義の心が伝わった」などの感想が寄せられました。

ゆいの会では、今後も、ハンセン病療養所施設保存の取り組みを進めるため、市民向けのイベントを開催していきたいと考えています。

第13回ハンセン病市民学会総会・交流集会 in 香川・岡山 プレシンポジウム

●日時  
2017年1月21日(土)

開場 13:30

開演 14:00～17:00

●場所 西川アイプラザ  
5階多目的ホール  
(岡山市北区幸町10-16)

●参加費 500円  
(学生・障がい者の方は無料です)

●プログラム  
第1部 シンポジウム

■大月 敏雄氏(東京大学教授)  
■武久 顕也氏(瀬戸内市長)  
■山本 典良氏(長島愛生園園長)  
■中尾 伸治氏(長島愛生園入所者自治会長)  
■屋 猛司氏(松久光明園入所者自治会長)  
コーディネーター  
■近藤 剛氏(ゆいの会会長)

第2部 コンサート

「かかわらなければ」

～沢 知恵ピアノ弾き語り～

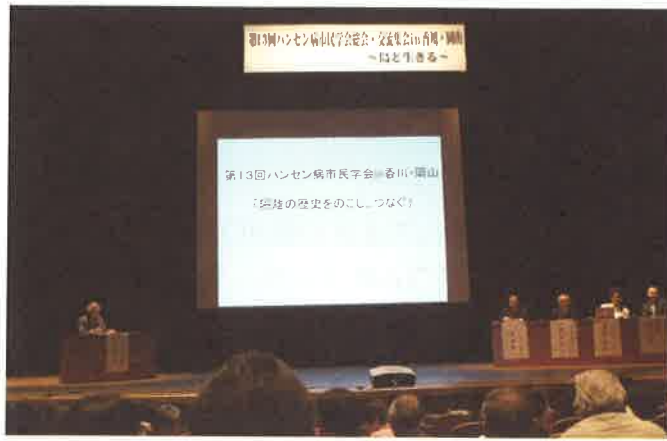
主催 ハンセンボランティア「ゆいの会」

ハンセン病療養所施設保存に向けたシンポジウム&コンサート

「負の遺産を未来に残しませんか」

# ハンセン病市民学会開かれる

ことし5月19日から21日にかけて、2010年以来2回目となる「第13回ハンセン病市民学会in香川・岡山」が、岡山市・高松市・瀬戸内3園で開催されました。澤畑さんと則武さんに、交流集会や分科会を振り返っていただきました。



交流集会シンポジウムの様子

## ◎初めてのハンセン病市民学会総会・交流集会

市民学会総会・交流集会に参加したのは今回が初めてでした。私は、会場での書籍販売の取りまとめ、会場との折衝、備品の発注などを担当させていただいたのですが、これ

までに市民学会総会・交流集会に参加した経験があれば、あらかじめ起こり得る問題点などを意識しながらもう少し手際良く準備が進められたのではないかと反省の念があります。

それにも関わらず、大きな問題を生じさせることもなく、無事に市民学会総会・交流集会を終えることができたのは、偏に近藤剛実行委員長をはじめとされます現地実行委員会委員の皆様のおかげと大変感謝しています。

ひとつ心残りなのは、当日も裏方として動かざるを得ず、シンポジウムや舞台の内容をほとんど見ることが出来なかったことです。次年度以降に開催される市民学会総会・交流集会においては、是非ともシンポジウム等を見させていただき、ハンセン病問題についてよりいっそう見識を深めていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の市民学会が成功裏に終わったのは、現地実行委員会の皆様、多くのボランティアスタッフの皆様のご尽力の賜物と深く感謝

謝いたします。

市民学会に携わられた皆様、本当にお疲れ様でした。

（運営委員 澤畑優太）

## ◎ハンセン病市民学会分科会 D 報告

5月21日の分科会Dでは、前日の交流集会シンポジウム「隔離の歴史をのこし、つなぐ」を受け、3部構成で、①淵ノ上英樹立命館大学アジア太平洋大学教授の基調講演、②愛生園歴史館の田村朋久学芸員の現状報告、③先進的な取組のなされている長島愛生園の世界遺産登録運動の現状と課題を

テーマとしたパネルディスカッションを行った。

第1部の淵ノ上英樹立命館大学アジア太平洋大学教授の基調講演では、原爆ドームが世界遺産登録されるまでの苦難の歴史が明らかにされた。一時的には広島県知事、広島市長、広島大学学長などが揃って撤去を主張した危機的な時期もあったが、高校生の保存運動などが実を結んで、被爆から51年経過した1996年に世界遺産登録に至った。何を残すべきかだけでなく、何を残すべきではないかとの観点の重要性も指摘された。

第2部では、愛生園歴史館の田村朋久学芸員から、2005年の旧事務本館（現歴史館）の岡山県近代化遺産登録がきっかけとなって、2017年3月に地元瀬戸内市でNPO法人設立に向けたふるさと納税に関する条例案が可決されるまでの活動経過が報告された。

第3部のパネルディスカッション（僭越ながら私が司会を務めさせて頂いた）では、前日のマクロ的視点からのシンポジウムとは対照的に、4名のパネラーから愛生園でのミクロな先進的取組の現状と課題が議論された。中尾伸治愛生園自治会長からは、十坪住宅以外にも、恩賜記念館、新良田教室講堂、共同浴場、報告農園、牛舎など多くの貴重な建造物があり、これらも是非保存して欲しいとの希望が述べら



世界遺産分科会の様子

れた。山本典良愛生園園長からは、愛生園には光田イズムに対する肯定的評価をする方もいるなどの困難があるが、そうした人も含めて複眼的な視点で施設保存を考えていく必要性が語られた。島村鐵二建築士からは、岡山建築士会有志による十坪住宅実測調査の取組、実際に十坪住宅を修復保存するために要する費用など具体的な話がなされた。地元瀬戸内市職員の釜井大資さんからは、ふるさと納税を原資としたNPO法人が設立されることが話された。当会の正田邦男さんからは、ゆいの会が瀬の浦の市民グループの取組を参考に、まずは取り組みやすい十坪住宅の保存運動から始め、高校生を巻き込んで街頭署名・募金活動を行ってきたことなどが報告された。

最後に、淵ノ上教授からパネルディスカッションの総括をして頂いて、分科会は終了した。今回の分科会は、これまでそれぞれの立場で取り組んできたことが、一箇所に集合し、あたかもジグソーパズルのピースが組み立てられるような場であった。どのような絵が完成していくのか楽しみである。

（運営委員 則武 透）



## 第16回ハンセンボランティア養成講座を開催 ～16期生12名が誕生～

さる6月24日、7月1日、7月8日の3日間、第16回ハンセンボランティア養成講座が実施されました。今回は呂久光明園の担当でした。

受講生は18名、めでたく卒業されたのが16名、内12名がゆいの会にボランティア登録頂きました。以下は受講生のみなさんの感想文の抜粋です。

また、受講された小野祐一郎さんに感想をお寄せいただきました。



光明園フィールドワークの様子

「青木先生の人柄と深い理解に感銘いたしました。知っているつもりで生きてきましたが、自分の中にある偏見に気付くことが出来ました」（医学）

「進んだ世界に学ぶことなく隔離を続け、日本国憲法ができてその精神が反映されず、入所者の人権が無視された歴史を知ることができた」（歴史）

「なぜ自分がここにいるのか、何をどのようにしているのかなど、ボランティアの注意点を学ぶだけでなく、自己分析のよい機会となりました」（ボランティア論）

「付いて下さった師長さんから細かくアドバイスして頂きました。介助される役になったときに、実際に声を掛け、身体を支えて介助して頂くと、本当に安心出来ました。介護、介助も当事者のコミュニケーションが大切なんだと学びました。」（介護実践）

「特に監禁室が印象に残りました。復元という形でもよいので既に失われた施設を残すことが記憶の継承に役立つのではないのでしょうか。」（フィールドワーク）

「屋自治会長の口から直接聞く歴史の話はとても重みがありました。入所者の方々の高齢化が進んでいることもよく分かりました。」（入所者との交流）

「漠然としたボランティアのイメージが少し形のあるものになりました。自分のできることから始めようと思いました。」（オリエンテーション）

「寄附集めが無らい県運動の一環として行われ、善意のものでありながら、隔離差別を強める結果となったことがにがにがしい。多くの歴史を語る十坪住宅を保存できるよい方法があればと思う。」（十坪住宅保存に向けて）



車いす介護実践を体験する小野さん

実践報告する11期生の  
廣畑周子さん実践報告する15期生の  
山上明人さん

## ◎ゆいの会養成講座に参加して

ゆいの会も、ボランティア養成講座があることも、全く知りませんでした。しかし、ハンセン病について学ぶ機会がありまして、その時に紹介をしていただいて、興味を持って、参加させていただきました。

光明園の青木園長や、ゆいの会の近藤会長の講義を通して、ハンセン病とは何か、ハンセン病の患者の皆さんが受けてきた様々な迫害の歴史をお聞きして、ホロコーストを連想させるそのすさまじさに、戦慄を隠せませんでした。

その後、ボランティア関係のお話をお聞きした上で、光明園に何って2回の研修を受けました。美しい景色の中で、看護師の皆さんのご指導の下、視覚障害の入所者の誘導や車いすの操作など、より実践的なご指導を受け、入所者の方々への支援の大変さとやりがいを感じることができました。

ボランティアを通して印象に残ったのは、「できることをする」という言葉です。県外から参加される熱心な方々も多く、県内に住んでいる私も負けていられないと思います。入所者の皆さんの今後のために、私に何ができるのかを考えながら、活動に関わっていかうと思います。

（16期生 小野祐一郎）

## ボランティア活動報告

ゆいの会で行われているさまざまなボランティアの中から、今回は2つの活動報告です。

### ●光明園夏祭りに参加して

8月3日、ゆいの会での初めてのボランティア活動として「光明園夏祭り」に参加しました。

暑い日でした。8月6日の広島も9日の長崎もきつとこんな日だったのだろうと思いつつ、光明園の面会宿泊所の食堂には大勢の人がいて、おにぎりを作っていました。近藤会長さんもおにぎりを握っていました。温かい（熱かった！）ご飯を握るのは久しぶりでしたが、文字通り「ゆい」の会の活動だなどと思いつつ握りました。

少し休憩して、夕方、お祭り会場で「綿菓子」作り、近藤先生から手ほどきを受けるも、想像していたより難しい。そのうえ、作って売るのはなくて、子供たちに作らせてあげるのだ。100円玉を握った子供たちが並び、綿菓子を作る、うまくできなくても満足そう。こんなことでこの子供たちのハンセン病への理解が進むのだろうか？そんな思いもよぎらない楽しさでした。



邑久光明園の夏祭り

長島での楽しかった思い出を通じて、この子供たちに、ハンセン病への理解や、偏見や差別を許さない心が育ってほしい、そんな思いで見上げる長島の夜空に上がる花火はとてきれいでした。

（16期生 能瀬雅国）



## ●ふれあいボランティアに

## 参加して

平日のふれあいボランティアには、時間的に参加できそうにないので、ぜひ夏休みに参加したいと思い、見学という形で参加させていただきました。

当日は、かき氷パーティが行われていて、何人かの入所者とスタッフの方々がとても楽しそうなお様子でかき氷を堪能されていました。

私たちも、おなが一杯になるほどいただきました。

ふれあいボランティアの会の後半になって、Kさんというおじいさんがやってきました。

とてもおしゃれな黄色の車いすに乗られた、ハンサムではきはきされたおじいさんです。

後から知ったのですが、90歳を超えていらしたとはびっくりです。

そのKさんが、長い時間をかけてご自分が入所されたところの様子を語ってくださいました。明るく話されるけれど、信じられないような辛い話…

第二次世界大戦の始まったころでもあったので、ご自身がもらわれていった親戚のお宅の話、お兄さんの骨壺には遺骨はなかった話、原爆でなくなってしまったご実家の話とか…

最後に、私の目をしっかりと見つめて言われたこの言葉を、私は忘れられません。



街頭宣伝が終わり、高校生たちと記念撮影

## 街頭署名・募金活動の報告

「あんたらが平和な世の中つくるんよ」  
Kさんの笑顔、小豆島まで「望できる窓からの景色の穏やかさと、Kさんから聞いたお話の悲しい歴史とのコントラストが強く心にしみた気がしました。」

(16期生 政木悠布)

(京山中3年)

## ●8月26日岡山駅西口街頭宣伝に参加して

この度、岡山駅西口での、十坪住宅の修復費用の街頭宣伝および募金活動に初めて参加させていただきました。チラシを配って、私たちの声に耳を傾けてくださる方がどれほどいらっしゃるだろうか、と半信半疑で始めたものでした。「ハンセン病の…」と恐る恐る声を出しながらチラシを手渡そうとしても、知らんぷりをして通り過ぎる方々。まあ予測していたこととはいえ、どうしたものか。少し時間が経ち、朝日高校の生徒たちの活動の方を見ると、チラシを手に、立ち止まって署名したり募金箱にお金を入れたりしてくださる方が、かなりいらつしやる様子に気付きました。やはり若い高校生たちが興味をもって声をあげて取り組んでいる姿勢は、通りすがりの方々の関心をもつきっかけを産むのだなあと改めて実感しました。私も負けじと、体を張って(?)チラシを渡し、署名をお願いしました。次第に足を留め、目を向け、耳を傾けてくださる方々に出会いました。誠意を持って声をあげれば、この問題に興味をもって賛同してくださる方がいらつしやることに感動しながら、少し達成感を味わうことができました。

(16期生 政木昭子)

## 岡山ローカルアソシエイト報告

私は事業主として、瀬戸内市商工会に所属しており、青年部副部長をしております。地域振興や活性化に関する取り組みにかかわることも多く、その一つとして、「岡山ローカルアソシエイト」を瀬戸内市で開催できないかと相談を受けました。岡山ローカルアソシエイトの目的は「岡山県を中心とした各地域の産学官民農の広範的なネットワークの形成による活発な交流を促し、産業の発展及び農業の振興を図る。」というものです。

今回のテーマは「地域の団結―再発見三地域資源を未来につなぐ」と決定。定例会前の特別企画として、長島愛生園内の歴史回廊見学ツアーと中尾自治会長の講話を入れることが出来ました。

橋が架かり、開かれた場所になったとはいえ、国策で出入りを禁止されていた場所であり、どちらかというと、来る理由が無ければ足の向かない場所です。しかし、281名の参加者中、120名が歴史回廊ツアーに参加されました。

本会の後には、恒例の各地域や、企業の取り組みを聞く事ができるプレゼン大会がありました。瀬戸内市長もプレゼンされ、ハンセン病療養所が地域にあつてよかったと市民が言えるような政策を

考えていきたいと話しておられました。  
最後の懇親会では、ちようど、神秘的な夕陽を見ることができました。

特別企画の園内見学にて、ガイドを務めていただいた、「ゆいの会」の仲間の皆様のご協力に大変感謝いたします。私も長島愛生園で12年勤務しましたし、全療協、弁護団などから、色々な動きがある事は存じておりますが、そういった所と全く関係ないところからのムーブメントが起きれば、世界遺産登録運動の後押しになると思い、全力で関わらせていただきました。

世界遺産登録に至る道には政治的な交渉、世界的なロビー活動が必要な面もありますし、ハードルが高い事は分かっていますが、ハードルを意識するのではなく、起こしたい現実を意識をフォーカスすることにより、設立当時より残っている施設を保存するという結果は出せると信じています。



神秘的な夕日の写真

（運営委員 松井康治）

連載  
企画

## 「世界遺産登録するならこの遺跡！」

### 第4回 長島愛生園「日出浴場」

#### ●一日の生活の記憶の場所、それは風呂場

「日出浴場」は1930年（昭和5）に日出地区の西の丘の上に建てられた浴場である。1931年（昭和6）から、途中改修されて1978年（昭和53）まで使用された。その後倉庫として使用されたが、1977年（平成9年）に用途廃止となった建物である。

この「日出浴場」は、向かって左に男風呂が30人、右に女風呂が10人も入ると満員となる規模の浴場であった。さらに女風呂の左横に木造の理髪室が併設されている。

浴場には足に怪我した入所者用の浴槽と、通常の浴槽がある。写真の手前の浴槽には「止まり木」が設置されており、知覚麻痺による足の傷があるため、その「止まり木」に足を載せるためのものである。このような浴槽はハンセン病療養所特有のものである。

当時の浴場の様子について、愛生誌（1999年2月号）に豊田一夫氏が「随筆 日出浴場」として次のように記述している。「・・・午後3時の開場時間が近づくと、日出の裏海岸地帯の2階建ての独身舎からも、千代田地区の夫婦寮（十坪住宅）からも、山を越え谷を越えてぞくぞくと風呂バケツを持って集まってくる。・・・火、木、土と1週間に3回だけしか風呂は沸かされていなかったため、夜おそくまで満員であった。なにしろみんな傷をもった者ばかりの時代のことであるため、少しでも早く風呂に入らないと忽ちのうちにリパノールガーゼが浮かんでくるので、一番風呂をめざして殺到したのであった。・・・風呂日だけは、人間らしさを取りもどしたいと、まず一番風呂に入ることがみんなの切実な願いだったのだ。・・・現在と同じように追加蒸気は4時と5時の2回だけであったので、6時頃になって入る者は鯉のように身を横になって入らないと肩まで湯につかれなかったのであるが、じっと寝転がっていないと、少しでも動くと浴場の底からリパノールガーゼが花びらのように舞い上がってきたのである。」



現在の建物は鉄筋コンクリート平屋建て、延床面積166平方メートル、屋根は陸屋根である。外装はモルタル下地リシン掻き落とし、と柔らかな曲線表現がでるように工夫されている。

また、現在この「日出浴場」は、国登録有形文化財に登録申請のための準備を進めている。

（運営委員 正田邦男）



## 寄稿

## 長島は人権学習の場

「今日は長島を訪問して、ハンセン病問題について学習しました。また中尾さんのお話を聞いて、二度と同じ過ちを繰り返さないよう、心に誓いました。」

これは、長島を見学した鳥取県の中学生の感想です。私が歴史館ボランティアをしてよかったと思うのは、年齢・職業等はさまざまですが、多くの人が全国各地から長島に訪れて、ハンセン病問題に関わっておられるお姿に接することができるからです。

歴史館の田村朋久さんのお話では、世界遺産登録運動がマスコミで報道されることもあって、年間1万2,000人を越える人が長島を訪れているということです。「これは、すごいな。」と、思いました。それで、どこから、どんな団体が来られたのだろうかと考えて「愛生日誌」（『愛生』所収）ここ9年分を調べて、表にしてみました。

すると、北海道から沖縄までの31都道府県から、行政、学校、宗教関係やサークル等、千を超える団体が来られたことが分かりました。ところで、地元である岡山県はどうであろうかと調べてみました。さすがに來園団体数は、他県に比べて多いのですが、県のすみずみまで広がっているとは思えませんでした。とりわけ、瀬戸内市の学校は訪問しているものの、県内の学校からの訪問がとても少ないのが気になりました。

岡山県では、ハンセン病問題解決のための啓発事業として、「入園者による語り部講演会」をこれまで延べ100校で行ってきました。しかし、これらの学校が、今度は長島を訪問するということが少ないことが分かりました。また、各学校の人権教育担当の先生を長島に集めて研修会を毎年行っていますが、これらの先生が自分の学校の子ども達を長島に連れて来るということが殆どないことも分かりました。

私は、県内の学校こそ長島を訪問してほしいと思い、岡山県ハンセン病問題対策協議会委員の則武透さんに、このことを協議会の議題にあげてもらいたとお願いしました。

8月17日にあったこの協議会（私は幸いにも傍聴することができました。）で則武さんは各委員さんに熱心に訴えられました。委員の園長さんや自治会長さんは、「語り部講演会の学校や研修会参加の先生は、わたらの話をきいて、それで済んだと思っているんじゃないか。実際に長島に子ども達を連れてきて、現地でしっかり学ばせてほしい。」と、発言されました。人権啓発担当部局の教育委員会からは、「この課題を部局に持ち帰って、何ができるか検討し、次の会で報告したい。」と、回答がありました。それで、平松正臣会長さんは、「みんなで知恵を出し合って人権学習が充実するよう、取り組んでいきましょう。」と、まとめてくださいました。

長島に多くの人々が訪れ、ハンセン病問題を学ぶことができるのは、歴史館の田村さんや森さんが、受け入れ体制をきちんとつくってくださっているおかげです。せっかく地元の人権学習ができる場があるのですから、もっと活用されていいと思います。私も、その橋渡しができればいいなと、思っています。

（追記）

光明園の社会交流会館に、新たに学芸員が配置され、園内案内の準備が始まっています。

（10期生 藤原準三）





## 田村さんの「歴史館だより」

いつもお世話になっています。

長島愛生園歴史館では5月から企画展「十坪住宅をめぐる視線」を開催しています。これは、園内に残された記録や手記から、国、設計者、寄付者、入所者、それぞれの視点から見た十坪住宅に対する思いを、実物資料とパネルで展示しています。まだご覧になられていない方は是非、ご来館ください。

療養所の世界遺産登録運動の進展や、様々な報道から、今年度も長島愛生園歴史館への来館者は多く、皆様にお世話になっています。今後ともご協力よろしくお願いします。

(長島愛生園歴史館 学芸員 田村朋久)

## 長島クリーンハイキングのご案内

平成29年11月18日(土) 午前9時～  
長島愛生園新良田教室前集合

★新良田教室から相愛海岸までのハイキング  
コースのゴミ拾いです。



## 後編 記集

先日、岡山弁護士会主催でオリバー・ストーン監督の映画「スノーデン」上映会を実施しました。恐怖と感動の映画でした。監視社会アメリカを内部告発したスノーデンは、現在ロシアに亡命中ですが、二度と母国アメリカに帰ることは出来ないと言われています。そのスノーデンは「私たちはみな人生のどこかで、易きに流れる道と正しい道のいずれかを選ばなければならない場面に出会います。私たちにはみな、小さなリスクを取ることで社会をよりよくする機会があるはずです。私たちにはみな、安全を求めてではなく正しいがゆえに行動する機会があるはずです。」と呼びかけています。現代社会で良心を貫くことの困難さと、しかし、それでもなお良心を貫く人間の可能性とを感じさせる含蓄のある言葉です。自分は果たしてスノーデンの言葉を実践できるだろうかと自問自答する毎日です。

(編集長 則 武 透)

## 世界遺産 NPO いよいよ設立へ

ハンセン病療養所を世界遺産に登録するため、NPO法人設立の動きが加速してきました。

7月から準備委員会で定款や設立趣意書の内容を議論しており、11月の設立総会を経て、岡山県に認証を申請。平成29年度末にはNPO法人が正式に設立され、いよいよ活動が本格的に動き出します。

私もゆいの会からの推薦を受けて理事に就任する予定です。

世界遺産登録の実現に向けて、NPO法人の活動には皆さまのご協力が不可欠です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(運営委員 古謝愛彦)

## ～年会費納入のお願い～

ゆいの会の活動は、会員からの年会費(年間2,000円)と、協力者の方からの寄付金によって支えられています。

<振込先>

◆ゆうちょ銀行からの振込は

記号 15490/番号 33536171

◆他の金融機関からの振込は

金融機関コード

9900/店番 548

預金種目 普通

店名 五四八(ゴヨンハチ)店

口座番号 3353617

※振込手数料は各自ご負担下さい。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

## ☆メーリングリストのご案内☆

皆様の情報交換のために、メーリングリストを設けています。ぜひご参加下さい。

ご参加希望の方は、ゆいの会事務局までご連絡ください。

(連絡先は1面に記載されております。)

## ゆいの会ブログ(ときどき更新中!)

当会の活動のほか、ハンセン病問題に関する最新の情報も随時掲載しています。

<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>